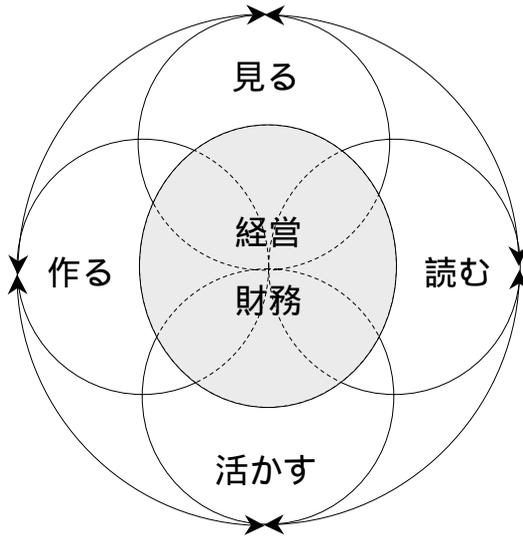


# 「作る財務」「見る財務」「読む財務」「活かす財務」



財務という言葉は、広く一般的に使われています。しかし、その使われ方やそれが意味するところは、人によって違うように感じます。そこで、経営財務の話が始めるにあたり、その「財務」という言葉について、私たちがなりの整理をしておくことにします。

私どもは、財務の領域を、「作る」「見る」「読む」「活かす」の4つの側面に分けて把握しています。

## (1) 「作る財務」

「作る財務」というのは、キャッシュ・フロー（CF）計算書、損益計算書（PL）、貸借対照表（BS）といった3つの基本決算書をはじめとする財務諸表を作成するための業務です。どのようにすれば会社の計算を効率よく適切に行うことができるかを検討したり、そのためのルールを定めたりする「会

計」は「作る財務」に属します。また、会社の経営状況を帳簿に記録する「簿記」も、当然、この「作る財務」に属します。ルールが「会計」で、作業が「簿記」というようなイメージです。

## (2) 「見る財務」

「見る財務」というのは、財務諸表が表示する数字について、その意味を理解したうえで見るということです。単に、見ているだけではあまり意味をなしません。この「見る」というのは、「チェック」と言い換えたほうが適切かもしれません。つまり、1年間で行った経営状況が当初想定していたとおりに行われたか、財務諸表を見ることで確認する業務になります。当初計画したとおりに進んでいることが、財務数値から確認できれば、そのまま当初計画に従って業務を遂行することになります。もし、大きく外れてきていることが確認できれば、その原因を究明し、軌道を修正します。そして、この原因を究明する側面が「読む財務」であり、経営計画を変更するなど軌道修正する側面は「活かす財務」となります。

## (3) 「読む財務」

「読む財務」は、財務諸表を使って経営状況をチェックした後に、その差異の原因や財務数値だけでは判別できない問題点などを探る業務です。いわば、財務数値の行間を読み取る業務です。一般に財務分析といわれる領域です。

## (4) 「活かす財務」

「活かす財務」は、財務諸表を見て、読み取り把握した企業の経営状況から、今後、企業経営をどのように展開するかを検討し、具体的な計画に反映させる業務です。どちらかといえば過去の財務数値をベースに将来を予測する業務になります。

一般に、「作る財務」と「見る財務」をあわせて「財務会計」といい、「読む財務」と「活かす財務」をあわせて、「管理会計」といいます。